

「岐阜シャツ」に、現代の「信長」を見た

当所では、かねてより地方創生の実現に向け、清流長良川に育まれた長良川流域文化にもとづく「岐阜ブランド」の確立に取り組んでおります。
そのひとつとして「昨年から取り組んでいる「岐阜シャツプロジェクト」は、「繊維のまち・岐阜」の復権を目指すもので、岐阜アパレルの技術力・可能性を最大限に結集したもののつくりへの挑戦です。

今月号では、岐阜シャツプロジェクトの商品開発情報交換会コーディネーターの 中小企業診断士 道家睦明氏に、岐阜シャツの今後、また岐阜シャツ開発を通しての「岐阜」への期待などをお伺いしました。



岐阜シャツプロジェクト
商品開発情報交換会コーディネーター

中小企業診断士
道家睦明氏
(株)道家経営・法務事務所)

○プロフィール (どうけ むつあき)
1987年3月 / 慶應義塾大学商学部卒業。1987年4月～2012年6月 / 大手広告会社にて勤務。社内教育部門およびマーケティング企画部門にて、人材教育プログラム開発やさまざまな業種のマーケティング計画・コミュニケーション計画・販売促進計画の立案・実施に携わるとともに、新規事業の事業計画立案・実施、異業種の事業コラボレーションのプロデュース等も担当。2003年3月 / 行政書士登録。2012年4月 / 中小企業診断士登録。2012年7月 / 道家経営・法務事務所開設。

「岐阜シャツ」とは

「岐阜シャツ」とは、次の3点を柱にした事業です。

第1に「岐阜シャツ」のプロジェクトは岐阜商工会議所が実施する「清流長良川に育まれた長良川流域文化にもとづく『岐阜ブランド』の確立」のための事業(鮎菓子・岐阜シャツ)のひとつとして取り組んでいる事業です。

第2に「岐阜シャツ」プロジェクトとは、岐阜商工会議所の会員企業から、その構想に共感した経営者を中心となって、平成26年4月から開始して、3年目に入っているプロジェクトです。

そして第3に「岐阜シャツ」は、①「織田信長」②「美濃和紙」③「クールビズ」という3つの要素から構成されています。

①織田信長

織田信長が稲葉山(金華山)の城下を岐阜と名付けました。そんな縁の深い信長の陣羽織をイメージしたデザインが特徴。

②美濃和紙

岐阜県の伝統工芸品。「岐阜シャツ」には美濃和紙を撚って作った特殊繊維が使われており、紙であるた

め吸水速乾性に優れている。

③クールビズ

全国的にも気温が高い岐阜の夏を快適に過ごせるようなクールビズのシャツ。

この3つは、ものづくりの視点でいえば、どんな材料を、どんな加工をして、どのようなお客様に届けるか。逆に言えば、どんな価値を、どんな人々の気持ちに、ど

んな形で届けるのか、という、マーケティング活動そのものとも、とらえることができます。

つまり、このプロジェクトは、「岐阜シャツ」という題材を活用しながら、岐阜の産業界に、新しいマーケティングの視点を取り入れていこうという「新しい提案」ともみることができます。

現代の信長が降臨

岐阜市周辺は、様々なモノや人々が行き交う、交易の都市という側面があります。信長が命名したというその名前自体が、「人々が交わる都市」という意味が込められていますし、長良川の湊を中心にした川路、加納宿を中心とした中山道や笠松から尾張に抜ける美濃路などの陸路、金華山の麓に楽市楽

信長×岐阜シャツ

岐阜シャツには「信長」が追い求めたエッセンスが集結

I 既成概念を取り払う 自由さと暮らし発想

信長は、「うつけ者」「好奇心の塊」「火縄銃による鉄砲部隊」「敦盛一番しか舞わない」「貴様呼ばわり」「自分にこだわらない」など、これまでの既成概念にはとらわれず、正義を貫いたといわれています。冷徹なイメージもありますが、実は、人情味と慈愛をこめたエピソードもたくさんあり、熱いハートの持ち主であったといえるでしょう。

岐阜シャツは、これまでのビジネスシャツの既成概念を白紙から

見直してスタートしています。日本の湿気の多い夏の季節に合う機能性はいったいどうあるべきか、ビジネスシーンでもプライベートシ

ーンでも使えるとはどうあるべきか、といったデザイン要素から、素材や縫い方、ボタンに至るまで、すべてをゼロから見直して考え直されています。

II 理にかなっている ことを追求

信長が生きていた当時は、この世界が丸い物体であることを知る日本人はおらず、地球儀献上の際も家臣の誰もがその説明を理解で

きなかったが、信長は「理にかなっている」と言い、理解したともいわれています。

.....

岐阜シャツも、そのコンセプトの根源は、「理にかなっている」ことが大切な要素のひとつです。暑くて湿気の多い夏、エアコンなどの環境にも対応でき、ビジネスシー

III ヒトやモノの新しい 組合せで挑戦の連続

信長は、武家の子息として生まれましたが、一般の民と一緒に遊び回ったり、相撲をしたり、ルイス・フロイスや弥助に代表される、海外の人々との交流があったり、





さらには、火縄銃だけでなく、地球儀・時計・地図などにも関心を示したといわれています。その中から、天下布武の本質を探っていたのでしょうか。

岐阜シャツプロジェクトは、岐阜の繊維業界のメンバーが中心となつていますが、これまでの川上・川下といわれるような棲み分けではなく、全員がプロジェクトに参加するパートナーとして力強いチームワークで活動しています。開発中にも外部の意見なども積極的に受け入れたり、あらゆる機会を通じて、実際に触っていただく機会を設定したり、さらには、展示会などでの反応を即座に反映したり、といった連続です。



IV 困難なことには、大胆不敵

信長について宣教師ルイス・フロイスは、「彼は少しく憂鬱な面影を有し、困難な企てに着手するに当たっては甚だ大胆不敵で、万事において人々は彼の言葉に服従した」と記しています。それだけ、

大胆不敵な動きが、世の中を圧倒させてしまったともいえるでしょう。

岐阜シャツプロジェクトという新しい取り組みに対して、低迷する岐阜の繊維産業の中で、批判的な声も一部でありました。しかしながら、プロジェクトのメンバーは、熱い想いをもちながら、実現のためにさまざまな技術革新を試みてきました。100%美濃和紙の繊維をどのようにしたら高い機能性を発揮させることができるのか、高いデザイン性のある首回りのカラー部分をどのようにしたら実現できるのか、ジャケットのボタンメイクの要素をシャツに取り入れるには、どうしたらよいか、といった困難な課題に対して、果敢に取り組みました。

V トップが最前線で活躍

信長の時代には、戦さにおいて最も敵に狙われやすい最前線に大将が立つことはほとんど有り得ない中、部下たちを鼓舞するために、危険を顧みず自ら最前線に出て戦っていた信長は異例であったといわれています。

岐阜シャツプロジェクトのメンバーは、全員経営トップばかりですが、自ら、現場に立ち、「岐阜シャツ」を実現するために、一つひとつの課題に自ら立ち向かい、そして、実現してきています。美濃和紙100%生地、陣羽織のデザイン加工、ジャケットの型紙・パターンメイクの融合、抗菌防臭加工などへの新しい取り組みは、メンバーの推進力がなければ、「岐阜シャツ」は完成しなかったことでしょう。

VI 自由な産業環境づくり

信長の代表的な商業政策として挙げられるのはなんといっても「楽市楽座」です。既成の権益を排除し、自由に市が立ち、自由に商売ができるといふ考え方は、その代表的な「楽市楽座」である美濃・加納で実現されています。また、同時に、不必要な関所を撤廃して経済と流通を活性化させる環境も創っています。

岐阜シャツプロジェクトにおいては、既存の繊維業界でのものづくりの棲み分けを取り払い、協働で開発したことはもちろん、流通販売のチャネルも、既存のファッショ流通ではなく、クラウドファンディングを

活用したり、百貨店等の販売店への直接卸をしたり、といった取り組みをスタートしています。今後、海外へも展開していく中でも、その経験が活かされていくことになるでしょう。

VII 新しいスタンダードづくりへ

信長は、当時全国でばらばらであった「枅」の統一規格として、織田領国では「京枅」を統一採用しました。この枅は豊臣政権―徳川幕府にまで受け継がれ、年貢や物流の管理が正確に、かつし易くなったといわれています。

岐阜シャツも、現代の新しいシャツのスタンダードのひとつになることを目指しています。ギフトショーをはじめとした展示会では、新しいビジネスシャツとして、日本だけでなく、世界に提案していくスタイルをとっています。ポロシャツや和装においても、新しいスタンダードスタイルとしての提案が、その中心となっています。

VII その先にある自由な世界の追求

信長は、混沌とした時代の中で、正義を貫き、慈しみを忘れないこ

これまでの「岐阜シャツ」プロジェクトの足跡



とで、その先にある自由な世界を夢見ていたのではないのでしょうか。「天下布武」という言葉は、武を持つて天下を統一するということではなく、「武」は、中国における為政者の徳である、禁暴・戡兵・保大・定功・安民・和衆・豊財を示しているといわれています。

岐阜シャツは、クールビズのビジネスシャツとしてスタートしましたが、ポロシャツ、和装へと展開がはじまっています。日本のビジネスシーンだけでなく、世界のあらゆる生活シーンにおいて、これまでの枠組みを取り払い、「岐阜シャツ」自体が、自由な世界への招待状のような機能を果たしはじめています。

岐阜シャツブランドへの期待 岐阜に新しいイノベーションを！

「岐阜シャツ」プロジェクトは、数百枚程度の販売実績にとどまっております、まだまだ小さなプロジェクトに過ぎないかもしれませんが、しながら、信長が抱いていた夢のように、暮らしの視線から、既成概念を取り払い、新しい取り組みで、世界を抜けていくという、原点回帰の取り組みかも知れません。しかし、原点回帰だからこそ、大きなうねりになる可能性は大きく、数多くの期待が寄せられています。

「岐阜シャツ」プロジェクトを、他人事としてとらえず、自社でその要素を取り込むとしたらどうなのか、何か新しい風を世の中に吹かすにはどうしたらよいか、次の「信長」の降臨先がひとつでも増えていくことを期待したいところです。